

家庭力の再生

土田 ひろみ

全家研ポピー流山支部 支部長

最近よく言われる○○力

家庭力、親力、指導力…最近よく耳にします。今回いただいたテーマも“家庭力の再生”です。三年前ぐらいでしたらきっと、もっともらしい事を書けたかも知れませんが、今自分にとってこのテーマは重く、何を書いても、自分自身が空々しくなってしまうと思い、まずは、一母親として、自分の子育て、そして今を語り、その上で思った事を書こうと考えました。

私には、23歳(女)・20歳(男)・16歳(男)の三人の子どもがいます。家庭力・親力のなさを思い知らされたのは、三年前、長男が17の夏でした。

それまでは、大きな心配もなく、すくすく伸び伸び、そして生き生きと日々を送り、あるスポーツを通し、たくさんの高校から声を掛けていただき、インターハイにも出場するような高校を選び入学しましたが、そこで、まさかのスポーツ挫折。そして、そこからは坂道を転げ落ちるようにドロップアウト。

それからというもの、今までに知らなかったもう一人の彼の姿を見ることになりました。三步進んで二歩下がるならまだしも、三步進んで四歩下がる…そんな日々でした。

痛みで動かない足に注射を打ってまでコートに立つような子だったのに、いったい何故？自

分の子育ての何がいけなかった？自分を責め悩み、仕事も手につかない時もありました。

そして、自分の子がそういう状態になって初めて、様々な悩みを抱える親子さんが多い事に気付きました。

不登校・引きこもり・非行

この様な悩みを抱える親達は、この“家庭力”“親力”のなさを日々突きつけられています。「いったい親は何をやっているんだ！何を考えているんだ？」と三年前なら私もきっとそう思っていたでしょう。しかし、我が子がドロップアウトして初めて知りました。放ったらかしにしている親ばかりじゃない、むしろ親だって必死に向き合っている。いつだって彼等のことが心から離れることはない。自分を責め過ぎて、心や身体を壊すお母さんをたくさん見てきました。それを思うと、ひと言に“家庭力の低下”と言うことができせん。

便利になりすぎた日本

携帯電話にパソコン。電化製品にはリモコンが付き、座ったままで何でもできる。お湯を注ぐだけの食事、コンビニ、眠らない町。人は生活する為の工夫を強いられる事が減ってしまった。豊かなこの国で、子どもに“ガマン”をさせる場面が、昔に比べたら少なくなった。その中でも、子ども社会を大きく変えたのはやはり、携帯電話とパソコンだと思います。

容易にたくさんの人とつながることができる…気がするツイッターやブログ、でも実は誰ともつながっていない実体。子ども達のコミュニケーション力は、益々低下するばかり

です。

大人になりきれない大人

ついに平成生まれが親になり始めています。便利な世の中で育ち、さほど苦勞もせず育った世代は、平成生まれだけではなく、高度成長期の昭和生まれの私も例外ではないのかも知れません。

そのあたりからは、少しずつ世の中が変わり、社会も変わり、家庭のあり方も変わったように思います。

子どもが子どもを育てる。虐待や、育児放棄が絶えない。無理もない。何不自由なく育った彼等にとって、子育ては思うようにならないガマンの連続であり、初めての経験です。

全家研運動を通して考えること

「この時代に教材を届けて集金もするの？」とあるお客様に言われた事があります。ポストに届き、代金はカード決済が当たり前の時代に敢えて地域の“モニターさん”を通して、できる限り教材をお届けしている全家研。

もしかしたら、子育てで行き詰まった若いママが、モニターさんにほんの少しグチをこぼすだけで楽になるのかもしれない。

「私もそうでしたよ。」の一言で救われることもあるのかもしれない。地域に置いた“寺子屋”(23会場で行っているポピー教室)で先生と話すことで安心してくれるかもしれない。

私達が、この仕事を通し、かかわりを持つ親子さんの数は、ほんのひと握りで、できることはわずかかもしれないが、日々の子育てに奮闘している若いママやパパに、いつも心からのエールを送り続けたいと思っています。

家庭力の再生や、親力についてなど、とても語る自信はありませんが、現場で出会うママ達に「私もそうだったよ、わかるよ。」と伝えることで、少しでも心の荷をおろし、「明日からまた子育て、がんばろう。」と思ってもらえたら嬉しいです。

私もまだまだ親としては未熟ですが、やっと最近、この仕事のあり方が、長男のおかげで見えてきた気がします。

家庭力の再生…などと難しいことを言う前に、もっと近くで、もっと同じ目線で、悩んでいるママやパパに「大丈夫」と言ってあげることが、一番大切なことのような気がします。